

法然展親鸞展



昨年五月五日〜六日、壮年会で法然展（京都国立博物館）と親鸞展（京都市美術館）を拝観しました。昨年二〇二一（平成23）年は、実は法然聖人の八百回会にもあたり、ありがたいことに、親鸞聖人の宝物のみならず、法然聖人の宝物も一度に拝眼することができました。拝観だけではなく、創業五四〇年の老舗の蕎麦を堪能したり、そこから歩いて親鸞聖人ご入滅の地善法坊跡にも参拝しました。

でんきを消して、スローな夜を。100万人のキャンドルナイト。



夏至・冬至、夜8時から10時の2時間、でんきを消してローソクで過ごすイベント「100万人のキャンドルナイト」。去る6月17日お寺の子ども会では、残口ウを再利用して、色んな色、色んな香りのアロマキャンドルを作りました。



前任職傘寿に



おかげさまで七月八十歳を迎えました。

仏婦被災地へ浴衣



去る七月、安室教区（55ヶ寺）仏教婦人会が主催して被災地へ送る子ども用浴衣を呼びかけたところ、短期間でしたがたくさんご応募いただきました。

本山法要で奉仕

第二百四回中央教習修了
濱崎 清子（釋純浄）



が、ある男性が「お疲れでしたね」とあめ玉を配って下さいました。みんなのことを思った気遣いにホッとしました。

私は四月十二日の午後、島根県から来られた女性の方と二人一組でゲート②を担当し、参拝の声をかけることになりました。初対面の人とは話づらいな、どうしようと思いましたが、相手の緊張はしていましたが、相手の方が気軽に話しかけて下さり、奉仕員として同じ活動目標があるため不思議と素直な気持ちで共に行動することが出来ました。二人で門に立ち参拝に来られた方へ「ようこそお参りになりました。」と挨拶しました。「法要後に「ようこそお参りでした。気をつけてお帰り下さい。」と声をかけました。最初はなかなか大きな声が出せず戸惑っていましたが相手の方がお参り下さった人に深々とおじぎをされているのを見ると、「何をしに来たのだろう、今は二度とないぞ」と思い、自然と声が出るようになりました。三十分交代で休憩をとり、又ゲートに戻り声かけするの繰り返しでした。交代するグループは男性二人組でしたが、「もうちょうと、ゆっくりしていいよ」とか「もう交代かね」と全然知らない他県の人のなにとでもすがすがしくなやかな気持ちにさせてもらい、何だか他人とは思えないような連帯感がありました。帰りには、全員が部屋に集まってお別れの挨拶をして解散したのです。

私は以前、家族が急病になり、生死をさまよっているのを看病した経験があります。奇跡的に命をとりとめました。その時家族のありがたさを痛感しました。また、いつ自分にも思わぬことが起きる、かもしれないので「今」出来ることを一生懸命やっておきたいと思い、一日一日を大事に過ごしています。

今回も、この活動に参加することが出来、今しか出来ない体験をたくさんの方々の方々や同朋の方達にさせていたいただき、ありがとうございます。良かったなと感謝しています。こんな自分になってくれた家族にも感謝しています。